

ロータリー月例報告書 vol.9

留学先：レッジョエミリア音楽院（イタリア）

去る三月、北イタリアでも春を感じさせる季節となり、気づけば入学してから早くも半年が過ぎようとしています。今月下旬からサマータイムが始まったこともあり（事前に時差が変わる日程について把握しておらず、ある日起きると突然腕時計とスマホの時間がズレていて慌てるという場面がありました）、少しずつまた日が長くなっていくのを感じる日々です。

さて、今月は学校のホールでの演奏会に参加する機会がありました。学校企画で一月より毎週日曜日に市民向けに行われている企画の一つで、今回は私が師事しているマリーナ・コンパラートの門下生による演奏会でした。収容人数100人ほどの小さなホールではありますが、普段と違う環境で歌えること、また人に自分の歌を聞いていただく機会があることは、とても幸せなことだと実感しています。今回はコンパラート先生の生徒のうち、実質半数である7名のみでの小さな演奏会でしたが、他の学生と団結して取り組めたという点でとても充実した演奏会でした。

私は今回ソロで三曲ほど歌わせていただきましたが、最近では重唱にばかり取り組んでいたこともあり、複数名でなく一人で歌うという感覚を久しぶりに思い出した気がしています。なお今回の演奏会のタイトルは、プッチーニの日本を題材としたオペラ「蝶々夫人」より、日本でも花の二重唱という愛称で親しまれているデュエット「Tutti Fior（トゥッティフィオール）」を引用し、全て花を題材とした曲目で構成されていました。私以外出演者が全員女性だったということもあり、演出に花束を用意したりと見るも鮮やかで、演奏会の場にいた多くの人が見て聴いて楽しめる、華やかな舞台であったように思います。課題点もいくつか見つかりましたが、今後の試験などに向けて新たに練習に取り組みたいと感じる、とても良い機会でした。



コンパラート氏と
門下生たちでの演奏会後の写真

続いて、今月も先月に続きもう一度ヴェルディのオペラ「仮面舞踏会」の舞台に乗りました。今回は会場が異なり、先月行われたモデナの歌劇場でなくレッジョエミリアの歌劇場での出張公演、また先月の本番からほぼ二週間の休みを経て、練習なくいきなり本番というスケジュールでした。二度あったうちの一度目は予想外のハプニングも多く、私自身初めて入る場所での戸惑いの中で一日目を終えてしまいました。二日目については今回の仮面舞踏会の千秋楽ということもあり、一丸となって本番を終えられたように思います。

他の合唱団員と交流し情報を得る中で、他の学生たちが次の仕事をもらっていることに続き、次の仕事が決まっている人、決まっていない人、またモデナやレッジョでなく例えばヴェローナ、アレーナでの仕事の話をしている人がいたり、至極



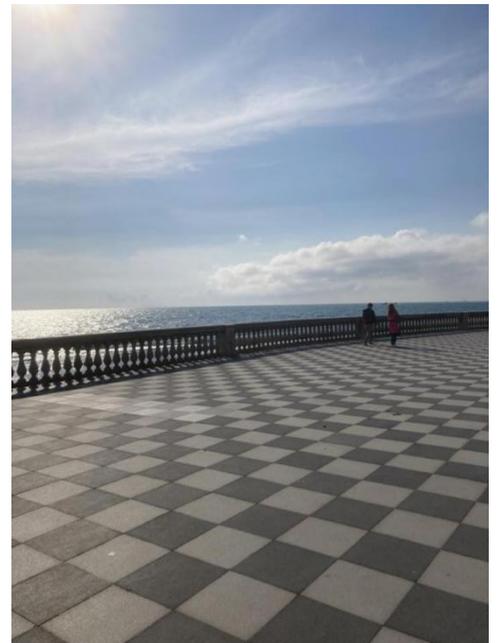
「仮面舞踏会」カーテンコールでの合唱団員たちの挨拶場面

当然ながら人それぞれ全く状況が違うということを改めて感じていました。そうした状況の異なる人たちがこうして繋がって一つの舞台を作ったと考えると非常に感慨深く、また広いようで狭いこの環境でこうして新たに知り合い、今後も違う機会の演奏会で繋がるかもしれないと考えると、胸が躍るなと思いました。

色々な刺激を得られた今回の合唱参加経験でしたが、私に関しては、やはり今の語学レベルなどを鑑みた状態でこうして歌劇場の裏側を一度経験できたことにまず感謝し、目標を定めて次の機会を掴めるようにと今後も取り組んでいけたらと考えています。

今月は演奏会の他に、レッスンの兼ね合いからリヴォルノを訪問する機会がありました。この街は、私が奨学金候補生としての面接の際に第一志望として提示させていただいた街です。結果的には違う街で出会いに恵まれこうして勉強していますが、仮にリヴォルノに居着いていたらどのように過ごしていたのかと考えると共に、また自分がこうして現在レッジョエミアに居着いて過ごしていることも、何か一つの縁なのだろうなと思いを馳せる時間でした。さまざまな巡り合わせの元で、こうしてこの場所で勉強できていることは本当にありがたいことだと改めて感じ、そして今後も学びを多くできたらと考える機会の多かった三月でした。

四月を迎え、本年度も心新たに取り組んでいけたらと考えております。今後とも皆様からの変わらぬご支援ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。



リヴォルノ
海岸線沿いにあるマスカーニ広場